

令和元年12月20日

12月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では台風、大雨の影響で県西、県北地区の一部地域は伐採・搬出ができず、生産が遅れている箇所がある。それでも他地区からの出材により、全体では昨年並みの入荷量となった。スギ、ヒノキともに小径材から柱材、中目材まで荷動きは順調で、元落は極めて少ない。原木価格は製品市況が停滞気味で、スギ小径材、柱材関係は大型工場の買い疲れもあって弱保合、ヒノキ材は品薄から強保合で推移している。

群馬県でも台風被害で林道が崩れ、山に入れない状況は変わらないが、被害の少なかった地域(利根沼田等)からの出材で原木入荷は徐々に増え、製材量も回復している。カラマツ土木用材の見積、引合はあるが、原木が少なく、先行きは厳しい状況である。製品価格は低位安定で推移している。製品在庫も売れ行き低調で低位安定。例年に比べて、年末のプレカット工場からの受注が激減している。

2. 米材

カナダでは州有林の立木価格の上昇による伐採抑制、製材最大手の Western Forest Products 社のストライキによる稼働停止で原木供給が減少、さらに私有林保有の最大手である MOSAIC 社も伐採を 11/25 から年内一杯停止する。このため、カナダでは年末に向けて港頭在庫の払底が懸念される。また原木需要が米国にシフトすることで、米国の港頭在庫の急激な減少も予想される。産地の原木価格は製材工場の在庫積み上げの時期となり上昇している。一方、欧州産 RW 平角の価格下落を背景に値下げを主張する日本側の構図は前月と変わらないが、港頭在庫の減少により、対日輸出価格の急展開も予想される。製品市況について、ランダムレンジス紙発表の 15 種平均価格(11/15)は\$373/M で、11 月頭に比べ 0.8% アップとなっている。

10 月の原木入荷量は 200 千 m^3 と前月より回復したが、依然低水準である。1~10 月累計で 2,060 千 m^3 (前年同期比 7.2%減)。出荷量は 203 千 m^3 、1~10 月累計は 2,042 千 m^3 (同 7.0%減)、在庫は 184 千 m^3 と 1 ヶ月割れが続いている。国内製材工場の稼働は引き続き順調であるが、欧州産 RW 平角の価格下落に引きずられ、11 月に入って、国内米マツ製材最大手が値下げを発表、即日実施した。東京木材埠頭の 11 月入荷は 16 千 m^3 (前月比 9.1%減)、出荷は 19 千 m^3 (同

11.6%減)、在庫は39千 m^3 (同6.9%減)。

3. 南洋材

サラワク州では雨季入りの様相だが、原木生産は比較的順調である。インドからの引合が低調になってきていることから、12月の本格的な雨季入りで需給バランスが取れると思われる。PNGでは中国向けが低迷する一方、ベトナム向けが好調で、ベトナム、インド、韓国で価格を支えている格好である。12月以降はクリスマス休暇、旧正月（マレーシアからの労働者が一時帰国）に向けて、全体の生産量は落ち込む見込み。12月原木入荷予想は約8千 m^3 。フリー板の市況が非常に悪く、生産調整に入っている。

4. 北洋材

シベリアでのアカマツ原木減、品質低下は不変であるが、価格が良いこともあり、大手シッパーの対日向けアカマツ野縁(30×40)の供給量は安定している。西ロシアからのWW羽柄製品の入荷が増えている。各シッパーはアカマツ上級グレードの\$550超えを維持しようとしているが、高値警戒感が強い。冬伐り丸太の入荷に伴い、アカマツ原板は\$380～\$400でオファーが来ているが、各社とも原板在庫は十分あり、買い気は薄い。東京、川崎への順調な入荷で、アカマツ野縁(30×40)の不足感は払拭され、荷動きも鈍化。国内挽き製品の一部サイズで値上げを実施済みだが、原材料のコストアップで苦戦している。11月予想の原木入荷・出荷とも5千 m^3 、在庫は16千 m^3 。製品入荷量(東京+川崎)は23千 m^3 、出荷22千 m^3 、在庫41千 m^3 。

5. 合板

合板用原木について、東北のカラマツは高値張り付き、スギは9月以降、出材が低調で不足感が始めている。ロシア材は横ばい推移。米材は出材が多くない。南洋材は底値を脱して、原木状況は落ち着いている。

10月の国内合板生産量は29.5万 m^3 と過去最高となり、うち針葉樹合板は28.6万 m^3 、出荷量は29.4万 m^3 、在庫量は12.9万 m^3 である。うち構造用合板の在庫は9.9万 m^3 と10万 m^3 を下回っている。針葉樹合板の価格は荷動きが活発な上に在庫量が少ないこと、12月はトラックの手配が困難になることから、引き締め感が強くなっている。輸入合板は潮目が変わり、引合が増え始めた。ラワン構造用、生型枠が少なく、徐々に値上げ基調になっている。10月合板輸入量は21.5万 m^3 と今年三番目に多いものの、依然として少ない。インドネシア産は比較的多いが、マレーシア産は少ない状態が続いている。インドネシアでは雨季に入ったが、各工場の原木在庫は安定している。マレーシ

アでは原木調達が難しくなり始め、各工場とも減産傾向にある。

6. 構造用集成材

12月のラミナ入荷は少な目だが、その分が1月に入荷する予定である。12月のフィンランドの製材工場のストライキ、6日間のロックアウトの影響で、出荷の大幅な遅れが予想される。各サプライヤーから第1・四半期のRW平角、WW管柱の価格、数量が提示され始めた。採算性の改善を図るため、前回のRW平角400ユーロ、WW管柱400ユーロ前半より高くなる可能性がある。輸入集成材は産地工場が減産に動いており、第1・四半期から供給を絞られることが見込まれるが、他国の市況低迷を理由に対日供給圧力が維持される可能性もある。

7. 木材チップ

製紙用、バイオマスボイラー用双方の需給状況を見ながら生産している。製紙用針葉樹チップは在庫量が多く、また燃料用も相変わらず在庫が多いが、出荷量も徐々に回復傾向にある。建廃チップを主原料とした大型バイオマス発電所が稼働したため、需給は徐々に引き締まっている。針葉樹原木の入荷は例年並み、広葉樹原木は積極的な集荷を実施している。解体材は台風、水害等による木くずの発生が多く、余剰感が継続している。

8. 市売問屋

記念市でも構造材に活発なセリが見られない。造作材も荷動きは少ない。材木店は戸建建築から離れたのか、増改築材の当用買いしか見られない。台風の影響が大きく、修理の動きはあるが、量的には少ない。人手不足で来年の夏頃までは仕事が続くようである。

9. 小売

11月に入り一服感がある。スギ構造材は災害の影響が多少出ているが、大きな変動はない。ヒノキ構造材は保合い。スギ貫の入荷が依然として少ない。米材製品はリフォーム中心に出荷は堅調だが、国内の大手米ツガ製材所の生産停止の影響で市場内に荷物が溢れている。米マツ平角、RW集成材とも弱含んでいる。欧州材は全体的に荷動きが悪く弱含み。ロシア材は依然入荷が少なく、年末にかけ集荷に苦労しそうである。下級材もビルダー中心に荷動きがあり強含み。国産針葉樹合板は災害地向け優先の影響で、入荷が遅れ気味である。品薄感はあるものの、大きな変動はない。市内では一般住宅の災害の修繕は落ち着きつつある。

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
北洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	↘	→	↘
南洋材	丸太	↘	→	↘
	製材品	→		

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸 入 量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↗	↗	→

3. 価格動向

樹材種	形 状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	→
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角 (GR) Std&Btr S4S 4・1/8" 13'	→
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16" 13'	↘
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	↗
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
	製材品	産地価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
		東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→			
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	→
			アカマツ (KD) 16×40上級	→
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド' 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↘
			ホワイトウッド' ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↘
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド' 無化粧 JAS 5プライ	↘
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	→
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↘
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	→